

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心して又安全に生活を送ることが出来るように支援する」のもと、職員は常に利用者様の生活を考え、ゆったりと穏やかな楽しい生活を送っていただけるように支援をしています。又、ホームの作りを和風にしており、落ち着いた雰囲気にて生活ができるようにしている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502348&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年7月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム涼風は、地下鉄南平岸駅から徒歩15分程で、近隣には広い河畔公園があるなど自然が豊かな住宅地に位置している。建物内部は和風の作りで、居間には多くの窓があり、明るく開放的で清潔である。管理者及び職員は日常的に利用者や家族の要望を引き出すようにしており、特に運営推進会議には全家族に出欠表を送り、意見を書いて返送してもらい議事録も全員に送っているので、運営推進会議に出席できない家族の意見も反映させることができる。また、記録物が整備されており、家族や関係者からの情報をもとに作成した「ライフヒストリー表」や日常を記録した「フロアシート」「ケース記録」から一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。また、医療情報を家族と共有するために「受診対応表」が活用されている。管理者・職員が熱意を持ってあたたかなケアを実践し、利用者は毎日をゆったりと穏やかに生活している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン時の理念を職員に対して浸透を図っている。又、地域密着に沿った理念を検討している。	理念は事業所の開設時からの分かりやすい理念であり、玄関や事務所、居間などに掲示されているほか職員の名札の裏面にも記載されている。職員は日常的に理念をケアの基本としているが、地域密着についての文言は特に含まれていない。	事業所の理念に加えて、地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだフロー目標を職員全員で作りに上げていくことを期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の時、挨拶等を行っている。今後は町内会の行事にも積極的に参加していきたい。	町内会の行事はあまり活発ではないが、日々の散歩では地域の方が連れている犬の話題などで会話が弾んでおり、保育園の園児との交流もある。近所の方が事業所を訪問する機会がないので、今年には事業所の焼肉パーティーや花火のときに声をかける予定である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は、あまり実施できていない。今後は町内会等を利用して実践していきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで実施。職員の参加も行っており、今後も継続していく予定。	運営推進会議には、町内会長、民生委員、地域包括支援センター担当者、家族等が参加し、外部評価も議題とし意見交換をしている。昨年はインフルエンザの影響もあり年間4回の実施であったが、今後は回数を増やしていく予定である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が市役所と連絡を取り合って相談を行っている。又、担当者が豊平区の連絡会に参加し情報を得ている。	何か相談事があるときはホーム長が市と連絡を取り合っており、必要に応じて市を訪問している。また、運営推進会議には地域包括支援センターの担当がほぼ毎回出席している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で職員に説明を行っている。又、施錠は行なっているも、希望時はすぐに鍵を開けられる様にしている。	管理者がカンファレンスの場で身体拘束についての話をしている。治安の関係で玄関・各ユニット出入口には日中も鍵を掛けているが、利用者が外出したいときには職員が察知して鍵を開けるようにしている。ユニット出入口の鍵については圧迫感が薄くような鍵の工夫も検討している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、日々の業務の中で説明を行い、主任を中心に防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で勉強会を開き、理解できる機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より十分な説明を行い、契約書の内容を説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望はケース記録を利用し、カンファレンス等で話し合う機会を設けている。	日常的に利用者・家族の要望を引き出すようにしており、訪問機会の少ない家族には必要に応じて電話にて話を聞いている。運営推進会議には全家族に出欠表を送り、意見を書いて返送してもらい運営に反映させている。重要事項説明書に外部の苦情申し立て機関も明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、全体会議を行い、意見を述べる機会を作っている。	1、2ヶ月に1度の会議で職員の意見を聞いているほか日常的に管理者が意見を聞いている。毎月15日までに子供の行事を優先に職員の休日希望を聞き、翌月の勤務体制に反映させている。	会議を毎月定期的に行うことで、更に職員の意見を反映できるように期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務状況を把握し、やりがいのある職場環境を作るように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時に勉強会を実施。又、外部研修が実施できておらず、今後は積極的に職員に参加してもらう予定。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に参加し、他の事業者の情報を得たり相談等を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との面談を実施。生活面の不安を解消できるように取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と共に3者面談を行っており、家族の要望を把握し、出来る限りの対応を取っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族から情報をもらい、初期生活援助計画表を作成し、状況を把握した援助を行なっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、食器拭き等、利用者の状況に合わせてホームの家事仕事を手伝ってもらっている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、担当者より利用者の状況を伝え、又面会時等を利用し意見交換を行なっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を利用し、友人・知人と接してもらっている。又、家族同伴の外出にて接していただいている。	入居時に家族等から聞いた情報をもとに、これまでの関係を継続できるように支援している。利用者の友人・知人には、気兼ねなく面会してもらっている。また、家族には、利用者を外出に連れ出してもらえよう協力をお願いしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、食事時間を利用し、職員が間に入ることで、利用者同士の会話が增えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と必要時は近況を確認しており、入院による退居は病院と連携を計っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話、行動を観察し、本人の意向を把握している。	家族や関係者からの情報をもとに作成した「ライフヒストリー表」や日常を記録した「フロアシート」「ケース記録」から一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報を得て、又、病院・施設より提供書をもらい経過を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録物等を利用し、担当者が取りまとめ、情報を把握し各担当者に伝達している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを活用し、情報収集を行なっている。その情報より担当職員が中心となり、会議等を利用し作成、家族には送付にて了承を得ている。	入居時に利用者・家族や医療機関等の情報をもとに「初期生活援助計画表」を作成し、それをベースに2週間から1ヶ月で介護計画を作成している。その後は3ヶ月ごとにモニタリングを行い、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画を見直ししており、状況に応じて随時見直しも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入しており、又、フロアシートを活用し情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況に応じて動けるように、代表が勤務に入らず待機している。又、協力病院と連携をはかり24時間体制で支援が出来るようになっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、地域の情報を得ている。又、民生委員、警察、消防と連絡をとっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の説明を行い、家族の希望に沿った受診体制を取っている。協力病院からは月2回の往診があり、必要時に受診を行なっている。	24時間対応可能な協力医療機関の医師が月2回訪問診療し、歯科医も必要時には訪問してくれるが、従来からのかかりつけ医の継続は自由であり家族に通院支援をお願いしている。医療情報はいずれも「受診対応表」で家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師に連絡を取っており、その都度対応できる体制を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院と情報交換を行っており、必要時は病院看護師と面談し状況を把握している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、担当医・家族・職員と話し合いを行っている。今後はホームとしての方針を家族に理解していただけるような方向性をとっていききたい。	重度化や終末期に向けては、医療機関との連携のもとに事業所として必要に応じて対応できるような仕組み作りをしている段階であり、利用者・家族に対しては状況に応じて話し合いの場を設けている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務、会議等において職員には勉強してもらっている。今後はマニュアル等の作成も検討している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に防災訓練を実施し、全職員が参加している。又、消防署に立ち会っていただき指導を受けている。	今年の4月に消防署の協力を得て日中を想定した防災訓練を実施しており、秋には夜間想定訓練を行う予定である。一方、定期的な救急救命訓練は行われていない。地域の協力は継続して呼び掛けていく方針である。	今後は、職員の救急救命訓練を定期的に行っていくことを期待したい。また、町内会の方にも緊急連絡網に加わっていただけるよう取り組みを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族同様の声掛けをしているも、礼儀を忘れないように気をつけている。排泄時等は他者に聞こえないように配慮して対応を行っている。	利用者の人格を尊重しつつ、親しみやすい声かけをしている。その中で礼儀を守るようにお互いに注意している。個人記録などは事務所や安全な場所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを汲み取れるように声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるも、利用者の状況に応じて対応できるように日々、調整している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者に2ヶ月に1回の訪問美容を利用してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食事の準備を手伝ってもらっている。食事介助の利用者がいる為に、朝食のみ職員も一緒に食事を取っている。	利用者のできる範囲で盛り付けや配膳、片付けなどを手伝ってもらっている。朝食と夕食は職員が利用者と同じ食事を摂っているが昼食は一緒には摂っておらず、見守り対応としている。	昼食も各ユニット1名でも同じ食事を利用者と一緒に摂り、出来ばえを確認したり食事の会話を楽しめるよう、取り組みを期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量を確認しており、その都度対応ができる体制を取っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいを施行してもらっており、必要な利用者には介助にて口腔ケアを実施してもらっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況はある程度は把握しており、不快感を与えないように支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握しつつ誘導を行い、自立支援を実現している。誘導の際の声かけは耳元で行ったり、トイレという直接的な言葉を避けるなどプライバシーに配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日一回、乳製品を摂取してもらい、レクにて運動を取り入れている。排便の確認を日々しており、状況把握に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土曜日まで週二回の入浴を実施、状況に応じ時間の変更、又、拒否のときは対応する職員を代えて声掛けをする等し入浴してもらっている。	日曜以外の13時から15時頃を入浴の時間とし、各利用者が週2回程度の入浴をしている。希望や状況に応じて他の時間帯でもシャワー浴などの対応をしている。入浴時はお湯を流しっぱなしの状態にして中のお湯をきれいに保つようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間良眠が出来るように支援している。午後からも午睡の時間を設けており利用者の状態により休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルしており、変更があった時は必要時にはDより説明してもらっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る範囲で家事仕事を手伝ってもらっている。又、折紙・塗り絵等も楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は近くの公園までの散歩を行い、近所の方との挨拶・会話をして頂いている。冬季はホームでの外出は難しく、家族に協力してもらい外出を行なっている。	事業所近くの広い河畔公園が住民の散歩コースになっており、利用者も日ごろから散歩を楽しんでいる。また、個別のドライブや買い物でも外出を支援している。冬場はやや外出機会が減るが、家族にも協力していただきながら外出できるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでお預かりしているも、家族の了解の上、利用者さんの状況により少額は管理してもらっている。散歩時に使用していただく事もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間は決まっているも、希望時に電話できる様な体制を取っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをし、利用者に季節を感じてもらっている。又、温度・湿度の管理も時間ごとに行っており、快適に過ごしてもらえるように配慮している。	居間は多くの窓があり、明るく開放的である。生活用品や利用者の作品などが配置され、壁には適度に写真や装飾が施されている。温度や明るさも調整され、清掃も行き届いており、居心地よく過ごすことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他にソファを配置しており、くつろいで頂ける様に心掛けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れているものも持ってきて頂いている。又、家族の写真等も貼って穏やかに過ごせるように心掛けている。	居室には利用者が自由に馴染みの生活用品などを持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも写真や利用者ごとの自由な飾り付けをすることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた居室の配置をしており、手すりも多くし安全面に考慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット1F」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502348&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年7月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心して安全に生活を送る事が出来るように支援する」の理念を踏まえて業務にあたっている。職員にも浸透してきており、現在の理念を基本に地域密着を取り込み、新しい理念も検討していきたく。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は挨拶をする程度ではあるが、散歩等で顔を合わせる機会は増えてきている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はあまり実践できていない。運営推進会議等を利用し今後は実践していきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1月に2回、担当者を中心に実施している。アンケート等も使用しサービス向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者と連絡、相談をし、利用者支援に活かすように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア主任より職員に対し指導を行っており、拘束をしない取り組みをしている。又、今後は勉強会を開催し徹底していくように検討している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務において虐待についての説明を行っており、防止できるように注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者より説明があり、職員にも浸透を計っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に契約書に対する説明に十分な時間をとっており、ご家族に不安がないように努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の要望に対しては、運営に反映できるように管理者に報告し、それにて職員に伝達できる体制を取っている。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議等を利用し意見提案の場をもうけ、又、フロア主任に対して報告をしてもらっている。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>残業のない業務体制を取り、ほぼ実践できている。職員の負担が少なくなるように配慮している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者・管理者を中心に勉強会を実施、業務においてもフロア主任より指導できる体制をとっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>担当者が研修会、グループホーム協議会等に参加し、他事業者と意見交換等を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より面談を実施し、本人の状態観察、要望を聞き入居より安心して生活ができるように心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より面会機会を増やしており、ご家族様の意見、要望を把握できるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時に出来る限りの利用者様の状況を把握し、ご家族様の意見を聞いたうえで支援体制を取っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者さまの状況に合わせて、食器洗い・食器拭き・洗濯干し・洗濯たたみ等の家事仕事を出来る範囲でお手伝いして頂いている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時等に利用者様の状況を報告し、ご家族様の意見を聞く場を設けるようにしている。担当者からも月に一度、手紙にて利用者さまの状況の報告も行っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会にて、友人・知人と接していただいている。ご家族様に協力をして頂き、外出も出来るように支援を行なっている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活時間で、利用者同士の会話が増えるように支援を行っており、レク・食事時間も含めて、利用者同士の関わる時間を多く取るように心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と連絡が取れる体制をとっており、退居後のサービス利用者とも必要時には連絡をとり、状況把握に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における会話や行動より、本人の希望を把握できるように心掛けており、記録物を利用し、職員全体で利用者様の気持ちを把握できる体制をとっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様に書面にて以前の生活歴を記入していただき把握を行なっている。又、病院・施設から情報提供書もらい、利用者さまの情報把握に利用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活における行動、会話等から利用者さまの情報収集を常に行なっており、情報を担当者が取りまとめて把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを活用し、介護計画に必要な情報収集を行なっている。情報を元に介護支援専門員を中心に担当者と共に介護計画を作成している。必要時には会議も行いご家族様より了解を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は記録物に日々、記入をしており出勤毎に確認を行なって、情報を共有できる体制を取っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況に応じて、ホーム長が勤務に入らなく常に待機している状態になっている為、必要時には対応ができる体制を取っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、ホームとして町内会に加入しており、今後は警察・消防・民生委員等と深い協力体制を取って行きたい。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の希望により、協力病院を紹介している。又、以前よりのかかりつけ医を受診されている利用者もいるが、基本は家族対応してもらっている。が必要時は受診対応も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師に連絡を取っており、その都度対応できる体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院と情報交換を行っており、必要時は病院看護師と面談し状況を把握している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、家族・担当医・職員と話し合いを行っている。今後はホームとしての方針を家族に理解してもらうような方向性をもって行きたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議・カンファレンス・日々の業務において理解してもらっている。今後はマニュアル等の作成も検討している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に全職員参加し防災訓練を行なっている。消防署にも立ち会っていただき、指導も受けて、職員に理解してもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けはプライバシーの尊重を第一に考えて行なっている。又、親しみやすい声掛けをしているも、利用者様の尊厳を守るように気をつけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を多くすることにより、本人の訴えや希望を聞く状況を増やす様に働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールは決まっているも、その都度、臨機応変に変更をしており、利用者さまに負担にならないように心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用する等し、起床時に職員が介助にて身だしなみに気を付ける様に支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況により、出来る範囲で片付け等を手伝ってもらっている。又、現在は食事を一緒に取ることが難しいも、声掛けを多くすることにより、楽しい雰囲気ですぐに食事が出来るように支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は個別に記録しており、又、個々の好みにあった水分を提供する事により水分量を確保している。又月一回の血液検査により、栄養状態・水分量の確認をういている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいを実施してもらっており、又、必要に応じては介助することによって口腔内の清潔を維持する支援を行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を確認しており、本人の負担にならないような声掛けを行い排泄を促している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日一回、乳製品を摂取して頂いており、又、1日一回の運動(ストレッチ体操)にて、服薬に頼らないように、自力にて排便が出来るように支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を実施。時間・曜日は決まっているも、利用者様の状況に合わせて変更等もおこなっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くすることにより、夜間に安眠できるように支援している。又、日中も利用者さまの状況に応じて居室にて休息してもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者さまの薬を理解しており、利用者さまより問い合わせがあれば、すぐに返答が出来るようにしている。必要時にはDrからも説明してもらっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、塗り絵等をレクに取り入れ、又、家事仕事等を利用者さまの状況に合わせ無理強いすることなく参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は近所の精進川の散歩コースを毎日歩くようにしている。冬季の外出は難しく、ご家族様に協力をしてもらっている。地域の方の協力は難しい状況になっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームにて管理している。現在の利用者さまの現況では管理は難しいかもと思われる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間を決め、希望時には電話できる体制をとっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を日々確認し、又、季節の飾り付けをしており、利用者さまに生活感を感じていただく工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルの他にソファを配置しており、テレビ観賞や利用者同士の会話を楽しめるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、自宅等で使っているものも、持ってきて頂く様に、ご家族様にお話をしており、又、バースデーカード・レクで作ったものを部屋に飾り、落ち着いた雰囲気でも過ごせるように配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、座席を利用者さまの身体状況に合わせて配置することにより、安全に生活が出来るように支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム涼風

作成日：平成 22年 8 月 15日

市町村届出日：平成 22年 8 月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開設時よりの理念であり、職員に周知できているも、地域密着の文言は含まれてなく、職員も地域密着サービスの意義をあまり理解できていない状況にある	現在の理念に加えて、各フロアにて、地域密着型サービスの意義を踏まえたフロア目標を立てて、実践をしていきたい	職員会議にて、職員全員の意見を聞き、各フロアにて目標を作り、地域密着型サービスの意義を確認し実践する	2ヶ月
2	11	会議を定期的に行えていないため、職員の意見の反映できる状況が少なくなっている	定期的に会議・カンファレンスを開催し、職員の意見が反映しやすい体制を取っていく	毎月、第一水曜日に会議を開催する予定であり、職員の意見を聞く場を多く設ける予定になっている	1ヶ月
3	35	定期的な救急救命訓練を行っていない	定期的に職員の救急救命訓練を実施し、職員のスキルアップにつなげたい	日程は未定も、消防署よりホームでの救命救急訓練の実施が可能なため、依頼をしており近日中に実施を予定している	2ヶ月
4	40	食事の準備、片付けは利用者で行なっているも、現在は昼食は一緒に摂取できていない状況になっている	毎食、職員と利用者が一緒に食事を摂取できる体制をとり、楽しんで食事を取れる支援を行なう	朝、夕食は職員も一緒に食事を摂取できている為、昼食は各フロアで職員一名が、検食という形で食事摂取できるような体制を作っていく予定	1ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。